

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
石川雅典			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
浅川 達人		明治学院大学 社会学部 社会学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習	MJGa-120808-0	15人	

## I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

学生は、調査テーマにそってアンケート調査班とインタビュー班に分かれた。前者はアンケート調査票案の作成と現地における調査員、そして回収票のデータ集計・分析ならびに報告書の執筆を担った。後者は、インタビュー項目案の作成と現地におけるインタビュー、そしてインタビューの文字おこしと分析ならびに報告書の執筆を担うとともに、対象者の了解を得られたものについてインタビュー記録資料集を作成した。学生はそれぞれの役割を自覚し、各班で連携して積極的に課題に取り組みながら、調査テーマに対する考察を深めた。

## II. 調査の企画・設計（デザイン）

## 1. 調査のテーマ／領域：

地方都市における市街地活性化問題 - 秋田県大館市の街なか「通り再生」プログラムをめぐって -

## 2. 調査の内容／概要：

アメリカのまちづくり手法を実験導入して市街地活性化に取り組んでいる秋田県大館市の地区を対象に、市街地活性化のこれまでの経緯と行方を探究する。

## 3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

アンケート調査班は、土地区画整理事業と「通り再生」プログラム活動の網がかかる地区を母集団とし、一戸建てについては住宅地図によるエリアサンプリングとパスデー法を併用。また地区内の一部集合住宅については、現地で世帯数を確認後、無作為抽出のうえパスデー法を採用。インタビュー調査班は、プログラム活動参加者が対象。

## 4. 主な調査項目：

アンケート調査班は、フェイスシート、地域集団の参加と地域生活、「通り再生」プログラムの認知・参加状況、プログラムによる提言事項への賛意と利用意向、提言事項協力可能レベルと景観整備のルール創設について、地域意識の6項目。インタビュー調査班は、フェイスシートと「通り再生」活動参加の景気・役割、「通り再生」活動への関わり、「通り再生」活動と諸変化、「通り再生」活動への思い、市街地の高齢化と活性化など6項目。

## III. データ収集の方法と結果

## 5. データ収集（現地調査）の方法：

アンケート調査班は、調査票による個別訪問面接調査。一部世帯で留置き訪問回収と郵送回収。インタビュー調査班は、半構造化面接調査。

## 6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

調査実施時期は2012年8月26日（日）～28日（火）。調査地は秋田県大館市御成町3、4丁目。学生調査員は14名。

## 7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

アンケート調査班は、116世帯を対象とし、83世帯から回収（回収率71.6%）。インタビュー調査班は、プログラム活動に参加している21名にインタビューを実施し、活動の経緯と状況などを把握。

## IV. データ分析の方法と結果

## 8. データ分析／解釈の方法：

アンケート調査班は、全員で収集データを点検後にSPSSで集計を行い、単純集計とクロス集計に基づいて結果を考察。インタビュー調査班は、メンバーが分担してインタビュー内容をすべて文字おこしし、その情報を全員で共有のうえ、インタビュー項目にそって各自担当分を分析。

## 9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

インタビューによれば、通り再生プログラム活動に主体的に取り組む参加者にとってこれまでの活動が一定の成果や意義を有する一方で、活動推進にあたり若者や地権者の一層の参加が求められる点について共通の認識があった。一方、アンケート調査の結果によれば、土地区画整理事業の関係で通り再生の提言事項に対する賛意は総じて高い一方、提言事項の運営を視野に入れた市民参加的な意向は限られている。市街地の高齢化が著しく進む中で、これまで以上に人のつながりが見えてくる「通り再生」にすることが課題であると思われる。

## 10. 報告書刊行の予定と概要：

「地方都市における市街地活性化問題 秋田県大館市の街なか『通り再生』プログラムをめぐって」明治学院大学社会学部社会学科の『社会調査実習報告書』（2013年3月刊行）所収（39-78頁）。また、報告書資料集として「大館市御成町南地区の通り再生プログラム活動に関するインタビュー記録」（全225頁）を作成。